

シラバス

事業者名ときわ会介護職員初任者研修

科目名	介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。 ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感の応答 コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴・非言語的コミュニケーションの特徴 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する・家族の心理的理解・家族へのいたわりと励まし・信頼関係の形成・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする・アセスメントの手法とニーズのニーズの違い 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術・失語症に応じたコミュニケーション技術・構音障害に応じたコミュニケーション技術・認知症に応じたコミュニケーション技術
介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録・介護に関する記録の種類・個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)・ヒヤリ・ハット報告書・5W1H報告 ・報告の留意点・連絡の留意点・相談の留意点 コミュニケーションを促す環境 ・会議・情報共有の場・役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)・ケアカンファレンスの重要性
合計	6	3	3	

シラバス

事業者名ときわ会介護職員初任者研修

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	<p>介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度・障がい者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障がい者自立支援制度、その他制度のサービスの位置付けや、代表的なサービスの理解を促す。 			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護保険制度	3	0.5	2.5	<p>介護保険制度創設の背景及び動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進 ・仕組みの基礎的理解 ・保険制度としての基本仕組み・介護給付と種類・予防給付・要介護認定の手順 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ・財政負担・指定介護サービス事業所の指定
医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	<p>医行為と介護・訪問看護・施設における看護と介護の役割・連携・リハビリテーション</p>
障がい者自立支援制度及びその他制度	3	0.5	2.5	<p>障がい者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの理念・ICF(国際生活機能分類) ・障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ・個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業
合計	9	1.5	7.5	

シラバス

事業者名ときわ会介護職員初任者研修

科目名	介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 ・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い・地域包括ケアの方向性 介護の専門性 ・重度化防止・遅延化の視点・利用者主体の支援姿勢・自立した生活を支えるための援助・根拠のある介護・チームケアの重要性・事業所内のチーム・多職種から成るチーム 介護に関わる職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解・介護支援専門員・サービス提供責任者・看護師等とチームとなり利用者を支える意味・互いの専門職能力を活用した効率的なサービスの提供・チームケアにおける役割分担
介護職の職業倫理	2	1	1	職業倫理 ・専門職の倫理と意義・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)・介護職としての社会的責任・プライバシーの保護・尊厳
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	介護における安全確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクとハザード 事故予防、安全確保 ・リスクマネジメント・分析の手法と視点・事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)・情報の共有 感染対策 ・感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)・「感染」に対する正しい知識
介護職の安全	1	0.5	0.5	介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理が介護の質に影響・ストレスマネジメント・腰痛の予防に関する知識・手洗い・うがいの励行・手洗いの基本・感染症対策
合計	6	3	3	

シラバス

事業者名ときわ会介護職員初任者研修

科目名	職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 ・研修課程全体(130時)の構成と各研修科目(10科目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、できるかぎり具体的に理解させる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
多様なサービスの理解	3	3	0	介護保険サービス(居宅・施設) 介護保険外サービス
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場的イメージ(視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等)
				・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種。介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計	6	6	0	